

# 富士河口湖

(山梨県富士河口湖町)

## 注目ポイント！

恵まれた資源に甘んじることなく、五感文化を掲げて国際的な観光地へ。  
行政、民間事業者、住民の3者が協働して観光振興を推進。



観光客数が約850万人から約1,260万人に！  
(平成元年) (平成17年)



河口湖から見た富士山

## コラム

「湖面に富士を映す美しい河口湖」という大自然に恵まれた状況に甘んじることなく、「五感に訴える町おこし政策」をテーマに、観光立町としての基盤整備やイベント展開、全国初の遊漁税の導入、温泉掘削、インバウンド、エコツーリズムなど様々なハード・ソフト政策による町づくりに取り組み、富士河口湖町を強力な観光地域に育て上げた。



観光カリスマ  
富士河口湖町長  
小佐野 常夫氏

## これまでの経緯

- |             |   |
|-------------|---|
| 昭和63年(1988) | 小佐野常夫氏が河口湖町長となり、「五感文化構想」の推進が始まる。                      |
| 平成4年(1992)  | 第1回河口湖ハーブフェスティバルが開催される。                               |
| 平成7年(1995)  | 河口湖で初めての温泉掘削に成功し、通年型観光地としての基盤を形成する。<br>レトロバスの運行を開始する。 |
| 平成11年(1999) | 韓国において初めての海外キャラバンを実施し、以降ほぼ毎年継続する。                     |
| 平成15年(2003) | 河口湖町、勝山村、足和田村が合併し、富士河口湖町となる。<br>西湖いやしの里根場の整備を開始する。    |
| 平成16年(2004) | 富士河口湖町公認ネイチャーガイド養成講座とガイドツアーが開始される。                    |
| 平成17年(2005) | 観光活性化標識ガイドラインに基づく標識整備計画を策定。                           |
| 平成18年(2006) | 上九一色村南部地域と合併し、現町域となる。<br>西湖いやしの里根場が第1期オープンする。         |

## 主な取り組み

### 河口湖ハーブフェスティバル

「香りのある里づくり」のシンボル事業として平成4年より開催、国際的な誘致力のあるイベントへと発展。近年は外国語によるアナウンス、ハーブガーデンの改修等、外国人旅行者対応にも力を入れている。



ハーブフェスティバル

### レトロバスの運行支援

観光客の二次交通として、町の要請により交通事業者が平成7年よりレトロバスの運行を開始。当初、町は車両購入補助や運行補助(赤字補填)により運行を支援。しかし平成9年度以降黒字化し、同路線での補助は不要に。平成16年には同方式で西湖方面の新路線も運行開始。



レトロバス

### 西湖いやしの里「根場」

エリア内の新たな交流拠点を創出するため、昭和41年に台風の影響による山腹の大崩壊で被災し消失した根場地区の“茅葺き民家群”を再現するべく、町が平成15年から着手。平成18年に第1期オープン。

個々の建物では、地域文化や伝統工芸の体験、地場産品の買い物、食事などが可能。



西湖いやしの里根場

### 観光標識の整備、商業看板の集約化

事業者一部負担型の商業看板集約化事業を実施。

平成11年から累計で17基整備、156枚を撤去・統合。観光客に分かりやすい標識に。



整備後の標識

### エコツーリズムの推進

青木ヶ原樹海等の自然や文化の保全と活用を図るため、町公認ネイチャーガイドの養成やネイチャーガイドツアーを実施。外国人対応のためのセルフガイドシートの作成も実施中。



ネイチャーガイド

問い合わせ先

富士河口湖町観光課 / 富士河口湖町観光連盟

Tel : 0555 - 72 - 3168

<http://www.town.fujikawaguchiko.lg.jp>